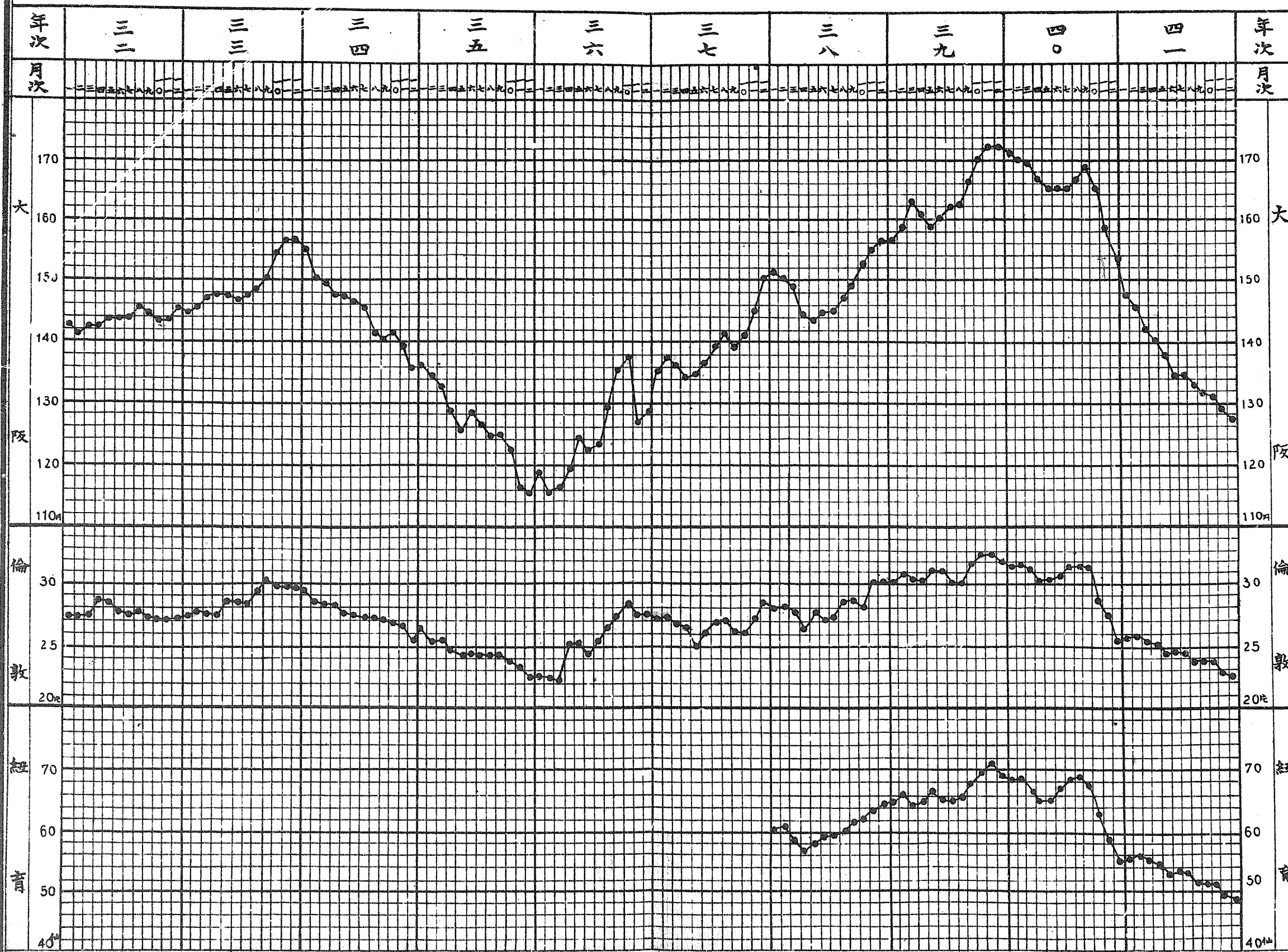


銀市價

大阪ハ一貫目

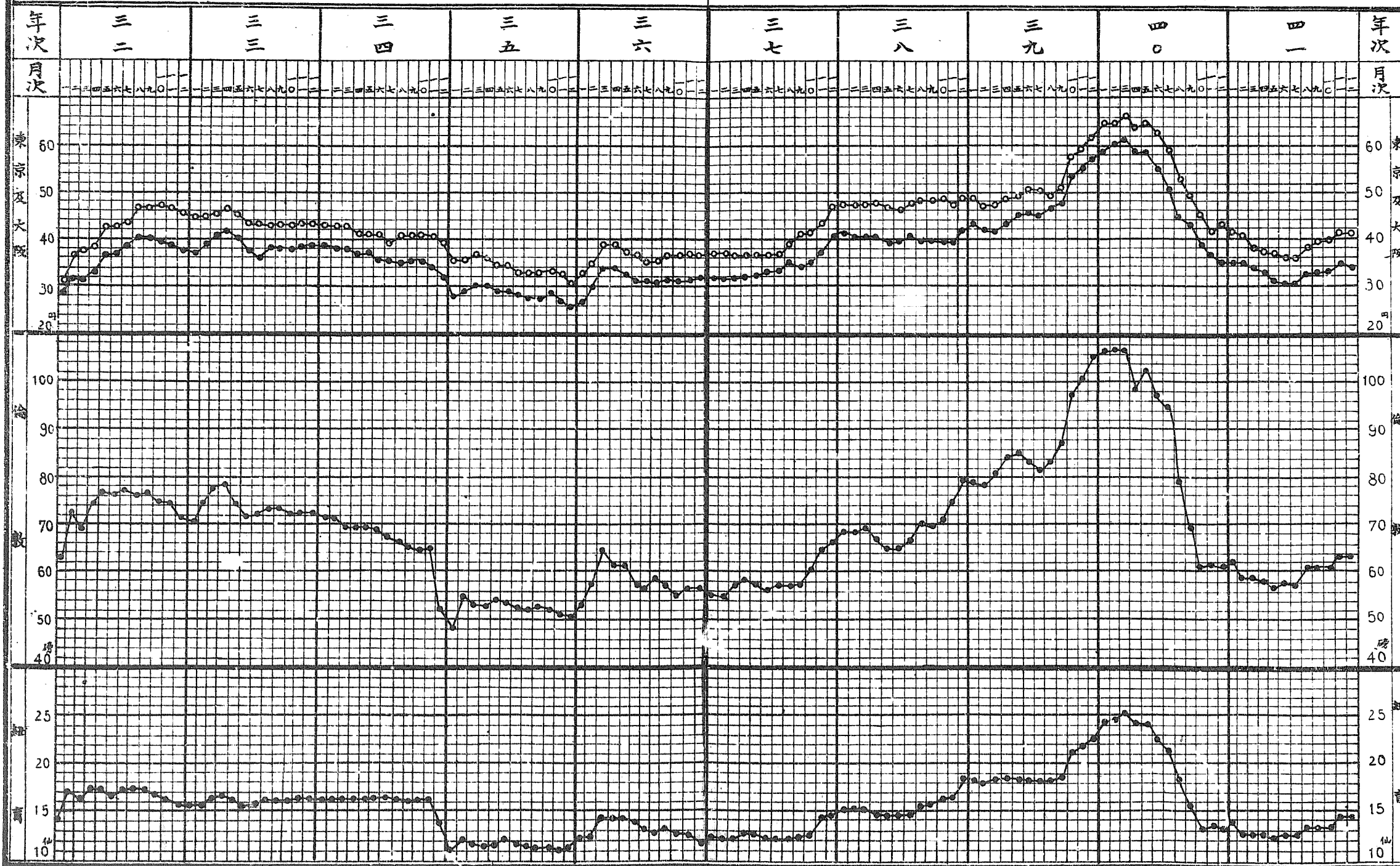
倫敦紐育ハ一オンス



● 大阪
○ 東京

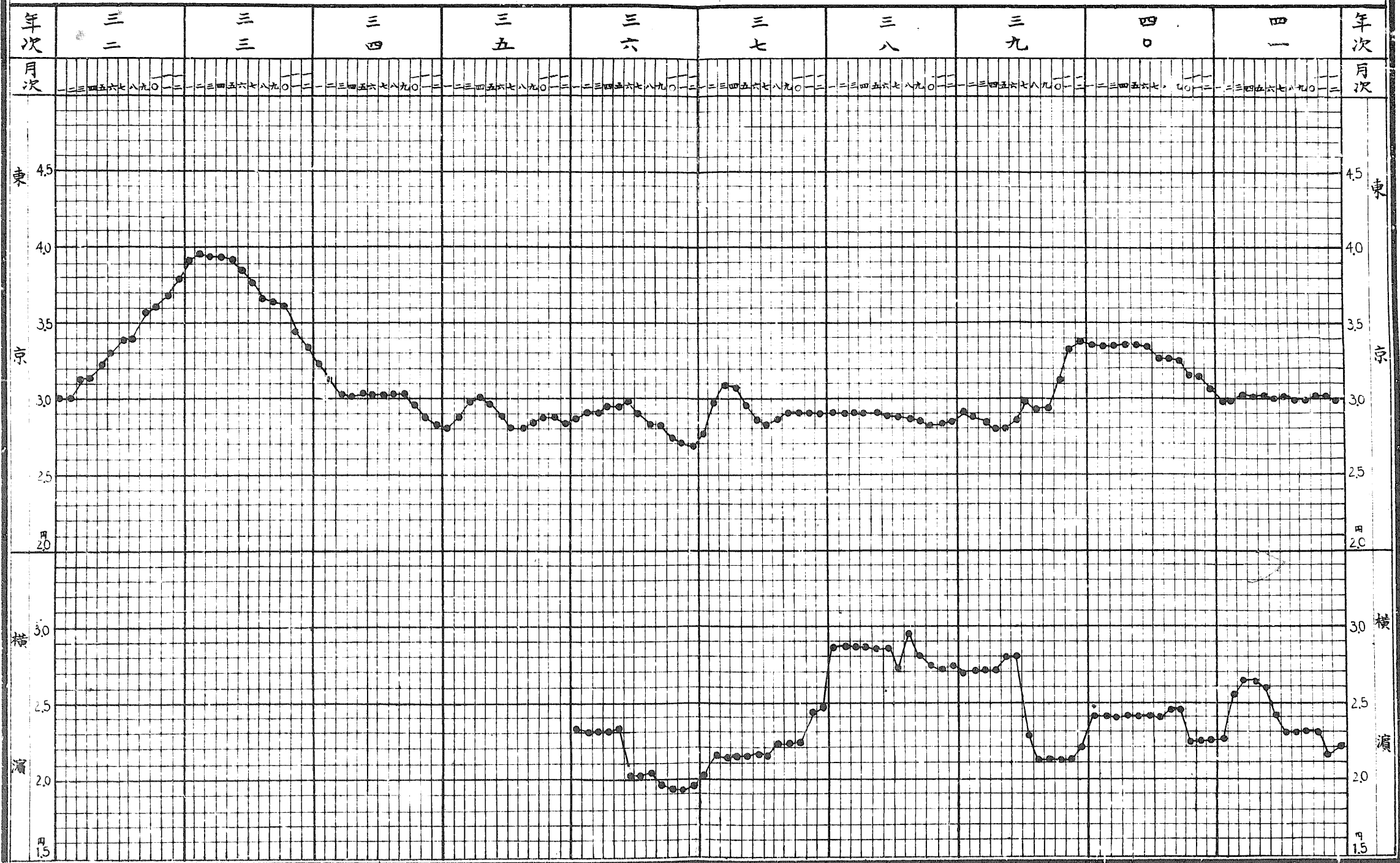
銅市價

東京大阪ハ百斤
倫敦ハ一英噸
紐育ハ一英斤

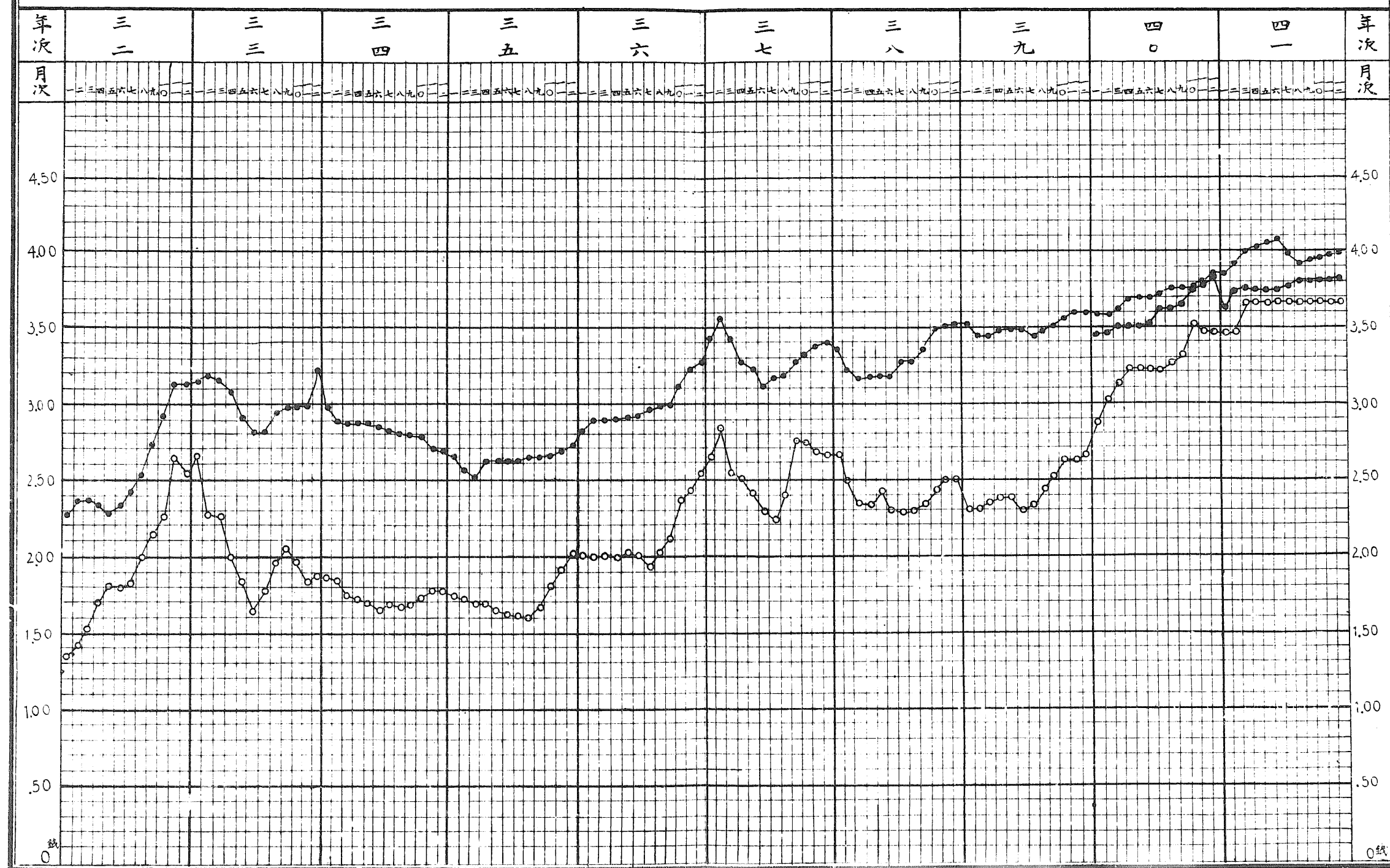


鐵市價

東京九鐵四公十貫目
横濱銑鐵レットカー百斤

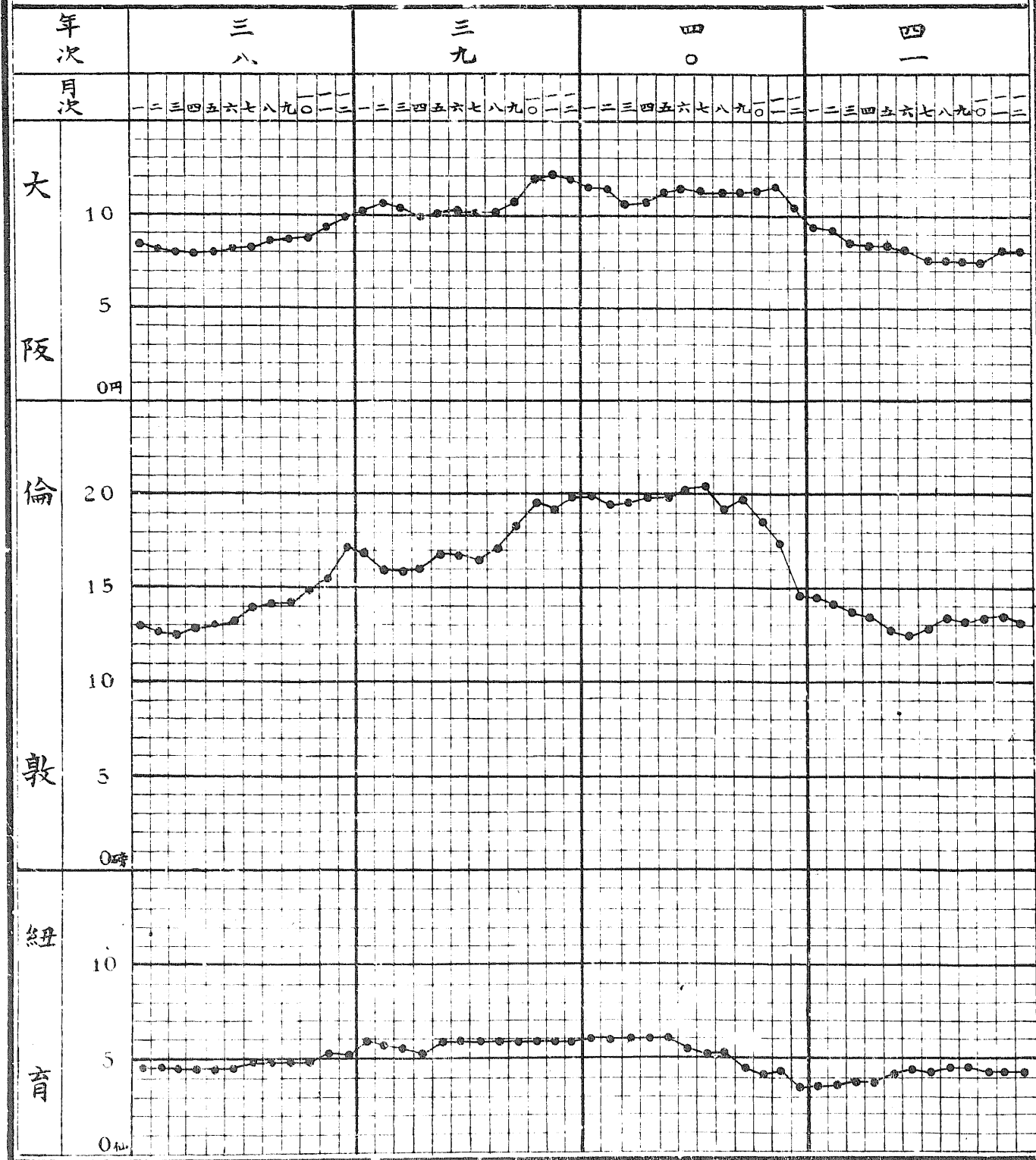


- チヤスター(一箱)東京市場
- タンク(全) 全
- 普通油(全)長岡市場



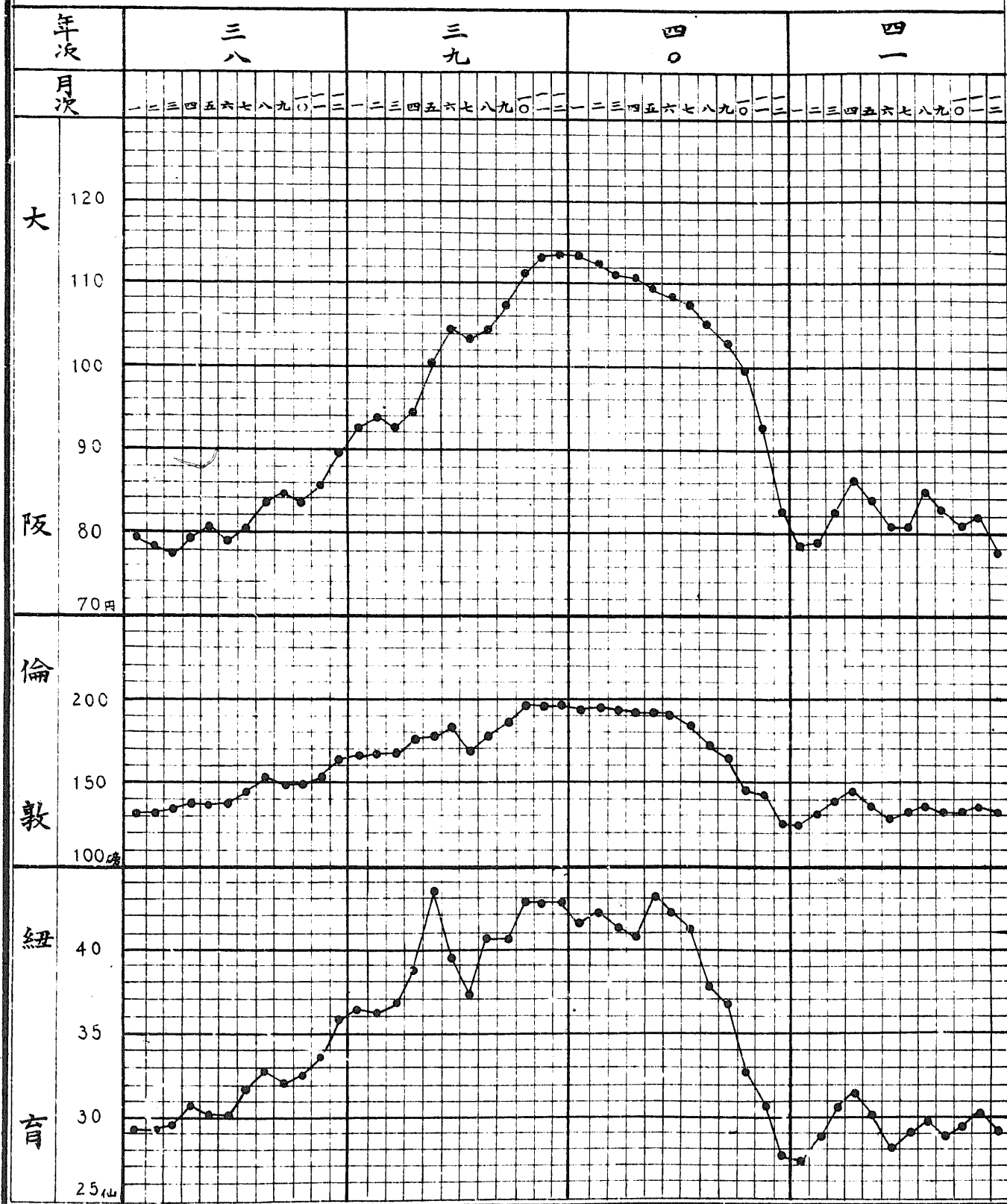
鉛市價

大阪、百斤
倫敦、一英噸
紐育、一英斤



錫市價

大阪ハ百斤
倫敦ハ一英噸
紐育ハ一英斤

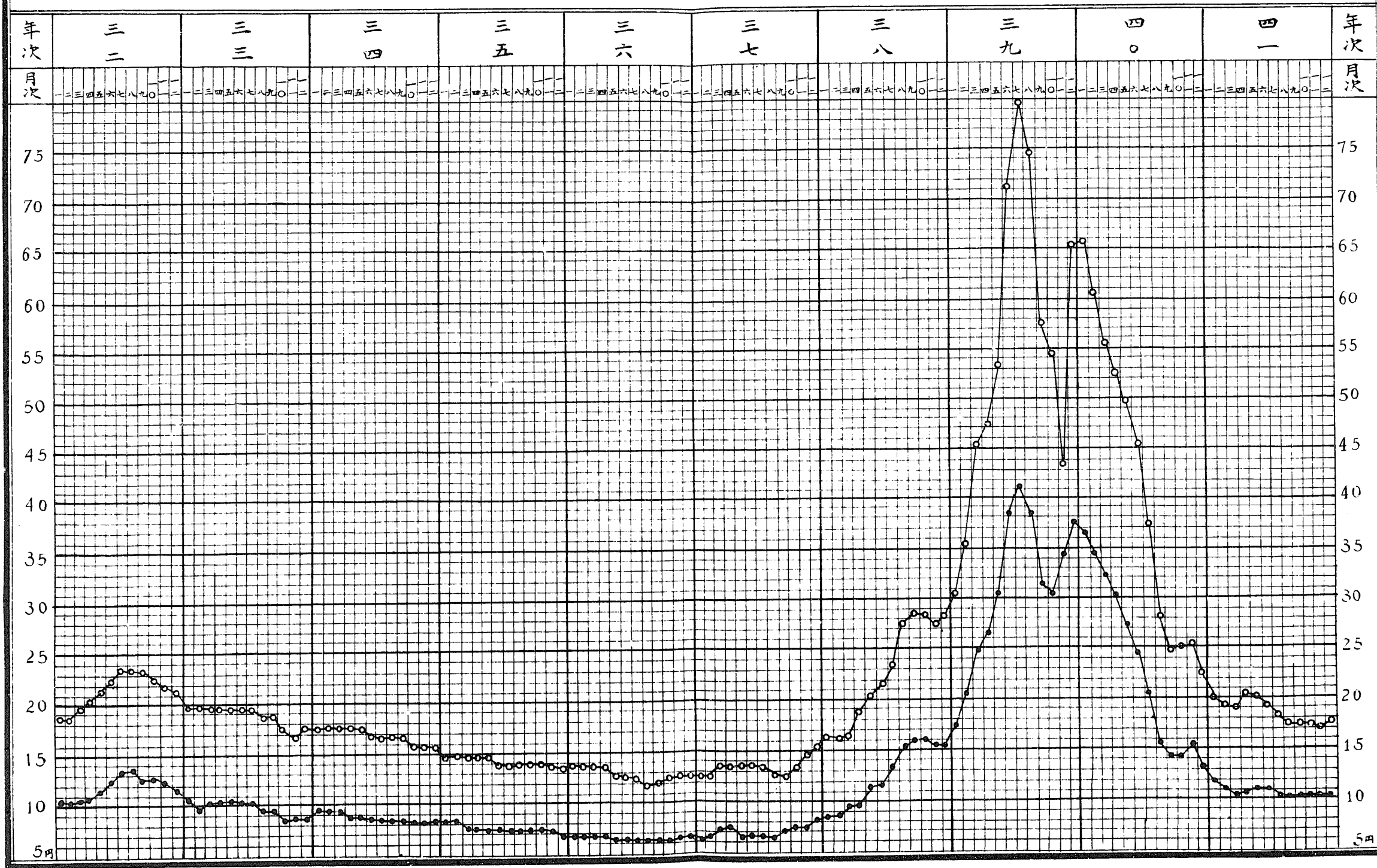


—○— 精 製

—●— 硫 化

安質母尼市價

大阪市場百斤



第六章 鑛產物ノ市價

明治四十一年中ニ於ケル金屬ノ市價ハ前年秋季ニ起レル大暴落ノ餘響ヲ承ケ各種ノ金屬ヲ通シ概
 乎悲境ヲ脱スルコトヲ得サルノ狀勢ニアリタリ殊ニ銀ノ如キハ年初以來年末ニ至ル迄終始下落ヲ
 以テ一貫シ其落差ヲ見ルニ年初及年末ニ於テ「オンス」ニ付實ニ五片ノ甚タシキヲ示セリ其他銅、鐵、
 錫、鉛ノ如キ亦何レモ下落ノ圈外ニ立ツコト能ハス大體ニ於テ前年末以來ノ市價ヲ保合ヒタルモノ
 、如シ左ニ各種ノ金屬ヲ通シ四十年及四十一年中ニ於ケル最高最低相場ヲ世界的金屬市場タル倫
 敦市場ニ就キ之ヲ示セハ左ノ如シ

鑛種	明治四十一年				明治四十年			
	最	高	最	低	最	高	最	低
銀	一月	二七・ ^片 _二	十二月	二二・ ^片 _二	一月	三三・ ^片 _{二分一}	十二月	二四・ ^片 _{十六分三}
銅	十一月	六六・ ^志 _{四分一}	六月	五六・ ^志 _{四分一}	三月	一一・ ^志 _一	十月	五五・ ^志 _一
鐵	五月	五六・ ^志 _{三片}	二月	四七・ ^志 _{五片半}	五月	六二・ ^志 _{八片半}	十二月	四八・ ^志 _{七片}
錫	三月	一四七・ ^志 _一	一月	一一八・ ^志 _一	六月	二一〇・ ^志 _一	十二月	一一五・ ^志 _{二分一}
鉛	一月	一五・ ^志 _一	五月	一二・ ^志 _{八分三}	六月	二二・ ^志 _{八分一}	十二月	一一三・ ^志 _{八分七}
安質	一月	三六・ ^志 _一	九月	三〇・ ^志 _一	一月	一一五・ ^志 _一	十二月	三〇・ ^志 _一
亞鉛	二月	二二・ ^志 _一	七月	一八・ ^志 _一	一月	二八・ ^志 _{八分一}	十二月	一九・ ^志 _{八分五}

石炭ノ市價ハ九州炭ヲ始メ磐城、夕張炭何レモ三分乃至四分方ヲ下落セリ獨リ石油ニ至リテハ前年

末ノ高趨ヲ持續シ内外油何レヲ問ハス逐月好況ニ在リタリ

左ニ主要礦產物ニ就キ同年中ニ於ケル市價變動ノ梗概ヲ説述スヘシ

銀

四十一年大阪市場ニ於ケル年平均市價ハ一貫目百三十六圓四十六錢ニシテ前年ニ比シ二十九圓十一錢ヲ下落セリ今年中市價變動ノ概況ヲ見ルニ前年末ニ於ケル金屬價大暴落ノ結果其年ノ最低値タル十二月ノ百五十三圓六十一錢ヲ承ケ一月ノ百四十七圓八十七錢ヲ以テ始マリ爾來漸下シテ四月ニハ百四十圓三十八錢六月ニハ百三十四圓八十二錢ニ落チ上半季ノ平均市價百四十一圓五十六錢ヲ示セリ斯クテ下半季ニ移ルモ頽勢挽回ノ機ナク七月ノ百三十四圓九十八錢ハ其後三ヶ月ニ於テ百三十一圓臺ニ下リ更ニ年末ニ及ヒ増々激甚ヲ極メ十二月ニハ實ニ本年中ノ最低値トシテ百二十七圓五十三錢ノ暴落値ヲ現出セリ

次ニ倫敦市場ニ於ケル銀相場ノ變動ヲ概觀スルニ當リ領事ノ報告及其他ノ情報ヲ綜合シ市場ノ狀勢ヲ叙スレハ前年末ニ起レル銀價大暴落ハ四十一年ニ入り却テ其反動ヲ起シ漸進騰貴ノ傾向ヲ示セリ即チ一月初日二十四片八七五ヲ以テ開始セラレタル銀市場ハ爾來徐進的恢復ノ徵候ヲ呈シ約一片方ヲ押上ケタリシカ月ノ中旬ニ至リ印度政府ノ募債發表ノ報道ニ次キ米、墨兩政府ノ購銀繼續及獨逸政府ノ購銀開始ノ豫想等諸種ノ好材料市場ニ傳ハリタルカ爲メ思惑筋ハ爭フテ多額ノ買占ヲ爲シタルニ依リ一躍二十七片臺ニ上騰シ茲ニ前年末以來ノ珍值ヲ現出セリ然レトモ之レ單ニ思

惑筋ノ注文カ沈鬱セル市場ニ對シ一時的刺撃ヲ與ヘタル結果ニ過キスシテ幾何モナク二十五片臺ニ落チ殆ント保合ノ姿ニテ經過セシカ月ノ平均相場二十五片七三八ヲ前年中ノ最低値タル十二月ノ平均二十五片三六二ト比較對照スルトキハ市況稍騰貴ノ狀勢ニアリタルヲ見ルヘシ二月ニ於テハ前月ニ於ケル氣勢ヲ承ケ市場一般ニ底強ク二十五片臺ヲ保合ヒシカ偶々印度「バザール」商ヨリ多額ノ買注文現ハレタルニ依リ一時二十六片臺ニ上リシコトアリシモ實際ニ於テハ左迄歩々シカラサリシカ爲メ再ヒ二十五片臺ニ落下シ爾後三月末ニ至ル迄格別大ナル變動ヲ見サリシハ蓋シ近キ將來ニ於テ拉典同盟諸國カ補助銀貨ノ流通高ヲ増加セントノ計畫アリトノ風説市場ニ傳ハリタルト恰モ當時印度ニ於ケル民間ノ需要多大ナルヘシトノ豫想説ヲ唱フル者アリタルカ爲メ此等ノ憶測ハ幾分カ投機的商估ノ思惑心ヲ鼓舞シ強ヒテ市價低落ノ趨勢ヲ抑制シタルモノ、如シ去レト大勢ノ趨ク所ハ如何トモスルニ由ナク早クモ四月ニ於テハ市況既ニ沈靜ニ歸シ而シテ月ノ下旬ニ至ルニ及ヒ米國及支那方面ヨリ來レル供給ノ漸ク市場ノ在荷ヲシテ豊富ナラシムルニ至ルヤ強氣筋ハ舉テ賣放ヲ試ミ其結果遂ニ二十四片臺ニ暴落ノ止ムナキニ至リ商勢茲ニ一頓挫ヲ來セリ斯クテ五月ヲ過キ六月ニ入ルモ氣勢甚タ昂ラス二十四片臺居据ノ儘上半季ヲ經過セリ下半季ニ於テハ頽勢増々甚シキヲ加ヘ七月ノ二十四片五一四ハ八月ニ於テ二十三片八五八ニ落チ更ニ十一月ニハ二十二片九三三ニ下レリ此數ヶ月間ニ於ケル市場ノ狀勢ハ九十兩月ニ於テ投機的商策行ハレ一時小波瀾ヲ現ハシタル外市況ヲ挽回スルニ足ルヘキ何等顯著ノ事實ヲ認ムルニ由ナク下落ニ次クニ暴落ヲ以テシ滔々トシテ歸著スル所ナキ狀勢ニ在リタルハ蓋シ銀市場ニ於ケル稀ナル市況ナリトス

之ヲ要スルニ四十一年中ニ於ケル銀價ノ下落ハ全年ヲ通シテ執拗最モ甚タシキモノニシテ年初四ケ月間ニ於ケル平均市價二十五片臺ナリシモノ年末二ケ月ニ至リ二十二片臺ニ下ル迄逐月落下シ殆ント停止スル所ヲ知ラサルノ狀況ニアリタリ是レ過去數十年間ニ起レル事實ニ照シ蓋シ他ニ類例ヲ見サル所ニシテ年初及年末ニ於ケル平均市價ヲ比較對照スルトキハ「オンス」ニ付キ實ニ三片二五〇ノ下落ヲ示セリ此等暴落ノ原因トシテハ思フニ印度及清國ニ於ケル農產物ノ不況、日露戰爭ノ終局ハ兩交戰國ノ購銀政策ヲ廢止セシメタル等主トシテ東洋方面ニ於ケル需銀ノ減少ヲ來シタルアリ又米國及歐洲諸國ノ如キニ至ツテモ佛國ヲ除キテハ平年ニ比シテ極メテ少量ノ購銀ヲ爲シタルニ過キサル有様ナリシヲ以テ是又勢ヒ銀價ノ昂騰ヲ妨ケタルニアラサルカ今四十一年中大阪及倫敦市場ニ於ケル月別平均市價ヲ前年ト比較對照シテ示セハ左ノ如シ

月次	大 阪		倫 敦	
	一 目	一 ガンス	一 目	一 ガンス
一 月	明治四十一年 一四七・八七〇	明治四十一年 二五・七三八	明治四十一年 一七一・六六〇	明治四十一年 三一・七六九
二 月	一四六・〇三〇	二五・八五五	一六九・八七〇	三一・八五二
三 月	一四二・二七〇	二五・五七〇	一六九・七二〇	三一・三二五
四 月	一四〇・三八〇	二五・一三三	一六九・二九〇	三〇・二五三
五 月	一三八・〇一〇	二四・三七七	一六五・一五〇	三〇・四七一

月次	大 阪		倫 敦	
	一 目	一 ガンス	一 目	一 ガンス
六 月	一三四・八二〇	二四・七六〇	一六四・七〇〇	三〇・八九三
七 月	一三四・九八〇	二四・五一四	一六五・五二〇	三一・三六六
八 月	一三二・八二〇	二三・八五八	一六七・五一〇	三一・六三七
九 月	一三一・七三〇	二三・八七七	一六九・二七〇	三一・三一三
十 月	一三一・五八〇	二三・七二五	一六五・三三〇	二八・八六三
十 月	一二九・四九〇	二二・九三三	一五八・三七〇	二七・一五四
十 月	一二七・五三〇	二二・四九三	一五三・六一〇	二五・三六二
平 均	一三六・四六〇	二四・四〇二	一六五・六七〇	三〇・一八八

尙參考ノ爲メ四十一年及四十一年十一月三十日ニ至ル十一月箇月中ニ於ケル英國ノ銀輸出入額ヲ掲ク

輸 入		輸 出		比較 減	
四十一年		四十一年		比較 減	
一一八〇四・一一九		一五八一三・三二九		四〇〇〇九・二一〇	
九五八八・八一二		一四六六七・〇二四		五〇七八・二一二	
二二二五・三〇七		一一四六三・〇〇五		一〇六九・〇〇二	

ニシテ又英國ヨリ極東ニ仕向ケタル輸出額(十二月十七日迄)ヲ舉クレハ左ノ如シ

四十一年	四十年	比較増減(ハ印減)
八四一二・三九〇	一〇・五三一・三五四	二・二一八・九六四

支那	六四一、四〇〇	四一七、三五〇	二二四、〇五〇
海峽殖民地	一六四、八八五	六九一、一五〇	五二六、二六五
合計	九、二八六、七五	一一、六三九、八五四	二、四二一、一七六

銅

大阪市場ニ於ケル四十一年平均市價ハ百片三十三圓四錢ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ十七圓二十八錢ヲ下落セリ今同年中市價變動ヲ見ルニ前年中ノ最低値タル十二月ノ三十五圓七十七錢ヲ承ケ一月ニハ三十五圓五十三錢ナリシカ二月ニハ更ニ三十五圓五錢ニ下リ尙ホ逐月漸下シテ六月ニ於テハ三十圓四十四錢ニ暴落セリ下半年ニ移リテハ氣勢稍ヤ恢復ノ徵候ヲ呈シ七月ニ於ケル三十圓四十八錢ハ八月ニ入り三十二圓五十一錢ニ進ミ爾後十一月ニ至ル迄大ナル變動モナク徐々トシテ高調ヲ持續シ同月ノ三十四圓三十三錢ヲ極度トシテ十二月ニハ再ヒ三十三圓八十九錢ニ下レリ次ニ同年中倫敦市場ニ於ケル銅價ノ變動ヲ見ルニ前年十二月ノ六十磅一一三ヲ承ケ一月ニハ六十磅三八六ノ高値ヲ示シ最近稀ナル好況ヲ呈セシカ二月ニ入り俄ニ下落ニ傾キ漸下シテ四月ニハ五十八磅三三一ニ下レリ其後市況再ヒ緊張シ五月ノ五十七磅三八七ハ八月ニ於テ六十磅臺トナリ更ニ十一月ニ於テハ六十三磅四一七ニ進ミシカ買方ノ小緩ミト共ニ十二月ニハ六十二磅九四三ニ下レリ

今領事ノ報告及諸般ノ情報ヲ綜合シ倫敦市場ニ於ケル銅相場ノ商勢ヲ叙スレハ前年末銅價大暴落

ノ主因ヲ爲セル投機的買占ノ失敗及紐育恐慌ニ基ク世界の財界ノ不況ハ今ヤ一篇ノ歴史トシテ過キ去リ歐米諸國ニ於ケル財界ノ秩序の恢復ハ萎靡不振ヲ極メタル銅價ヲシテ漸ク恢復ノ機運ニ向ハシメタルモノ、如シ即チ四十一年ニ於テハ一月以來稀ナル好況ヲ呈シ第一週ニ於ケル六十一磅六二五ナリシモノ第二週ニ於テハ六十二磅臺ニ進ミ次テ歐洲印度及支那筋ノ注文續々トシテ市場ニ現ハル、ヤ強氣筋ノ仲買商ハ大ニ買占ヲ試ミタルカ爲メ六十四磅臺ノ高値ヲ現ハスニ至リタリ當時米國市場ニ於ケル市況頓ニ昂進シ逐日相應ナル取引行ハレ昨年以來ノ在庫品稍ヤ手薄ヲ感スルニ至レル有様ナリシヲ以テ需給ノ關係ハ増々市價ノ根底ヲ強カラシメ一進一退ノ間ニ於テ轉タ銅價ノ前途ヲ樂觀セシメタリシカ二月末ニ至リ偶々米國「アマルガメーテット、コツバー、コンパニー」ノ事業開始ノ報道市場ニ傳ハリタルカ爲メ一時市況ヲ沈衰セシメ忽ニシテ六十一磅臺ニ低落セリ三月以後ニ於テハ消費筋ノ需要抄々シカラサルノミナラス思惑筋ニ於テモ亦前途ヲ氣構ヘ勉メテ大取引ヲ避クルノ狀況ニアリタルヲ以テ氣勢甚タ昂ラス殊ニ英國ニ於ケル造船業及工業界ノ紛紜ハ市場ニ於ケル堆銅量ノ潤澤ナルト相俟テ市價ノ昂騰ヲ制シ加フルニ米國筋ノ製産者ハ再ヒ在荷ノ堆積ニ苦メラレ市價ノ成行如何ニ拘ラス盛ニ倫敦市場ニ賣放チタルヲ以テ積日ノ沈鬱ハ更ニ一段ノ衰態ヲ來シ五十六磅臺ノ崩落値ヲ現出セシカ安値ハ却テ思惑筋ノ購買心ヲ誘致シ之カ爲メニ多少ノ恢復ヲ見ルコトヲ得タレトモ市況ハ依然トシテ沈靜ノ域ヲ脫スルコトヲ得サリシ斯クテ四月ヲ過キ五月ニ入り造船業ノ紛擾全ク落著シ金融亦緩漫ナリシヲ以テ市況幾分ノ恢復ヲ期待セシメタルニ人氣ハ豫期以上ニ引立タス六月下旬ニ至ル迄大ナル變動ヲ見スシテ經過セリ然レトモ一

般景氣ノ不振ナルニ反シ消費筋ニ對スル商況ハ概ネ良好ニシテ荷捌上左迄困難ヲ感セサル有様ナ
リシ先之米國ニ於ケル財界ハ漸ク常態ニ復シ銅工業ノ振興ニ伴フ需要漸次増進セシカハ紐育市場
ハ勿論倫敦市場モ七月下旬頃ヨリ珍ラシキ活況ヲ呈シ月ノ初旬ニ於テ五十七磅臺ナリシモノ忽ニ
シテ五十九磅臺ニ躍進シ而シテ日本、智利、支那及歐洲諸國ヨリ多大ノ提供アリタルニ拘ラス買方ハ
破竹ノ勢ヲ以テ買煽ヲ續行シタルヲ以テ八月ニ入り遂ニ六十一磅臺ニ昂進セリ爾後一高一低ノ間
ヲ過キ月ノ下旬ニ至リシニ恰モ米國及墨國ノ產額増加ノ報市場ニ傳ハリタルノミナラス當時米國
ニ於ケル消費者ハ選舉ヲ氣構ヘ買入ヲ手控ヘタルカ爲メ其製產者ハ歐洲ニ向ツテ賣口ヲ求ムル者
多カリシカ故ニ市況俄ニ一頓挫ヲ來シ加フルニ「バルカン」半島ニ起レル政變ハ市場ノ人氣ヲ妨クル
コト尠カラサリシニ因リ形勢一轉下落ニ傾キ五十九磅臺ニ下レリ十月ニ於テハ印度及歐洲筋ノ需
用市場ニ現ハレタルアリ又一面米國ニ於テハ「シンデケート」ノ畫策空カラスシテ市價ノ恢復ヲ見ル
ニ至リシヲ以テ氣勢再變月末ニ於テハ六十一磅臺ニ引戻シ更ニ十一月ニ於テハ六十二磅乃至六十
三磅ノ間ヲ往來シ十二月ニ至ル迄六十二磅臺ヲ下ルコトナカリシ

月	次	大		
		明 治 四 十 一 年	明 治 四 十 年	倫
一	月	三五・五三〇	五九・六八〇	六二・三八六
二	月	三五・〇五〇	六〇・三八〇	五八・七八六
三	月	三三・八四〇	六一・一七〇	五八・七六一
		明 治 四 十 一 年	明 治 四 十 年	敦
一	月	三五・五三〇	五九・六八〇	六二・三八六
二	月	三五・〇五〇	六〇・三八〇	五八・七八六
三	月	三三・八四〇	六一・一七〇	五八・七六一

月	次	大		
		明 治 四 十 一 年	明 治 四 十 年	倫
四	月	三三・三一〇	五八・六六〇	五八・三三一
五	月	三一・三五〇	五八・九八〇	五七・三八七
六	月	三〇・四四〇	五四・六六〇	五七・八四二
七	月	三〇・四八〇	五一・二七〇	五七・九八九
八	月	三二・五一〇	四五・一一〇	六〇・五〇〇
九	月	三三・〇〇〇	四二・九八〇	六〇・三三八
十	月	三二・七八〇	三八・五七〇	六〇・一三九
十	月	三四・三三〇	三六・五七〇	六三・四一七
十	月	三三・八九〇	三五・七七〇	六二・九四三
平	均	三三・〇四〇	五〇・三二〇	五九・九〇二

鐵

四十一年ニ於ケル洋鐵市況ハ一般事業界不振ノ影響ヲ被リ最大需要季タル三月及十一月ノ交ニ
於テモ例年ノ如ク活氣ヲ呈スルコト能ハス特ニ各種事業ノ繰延ト造船所鐵工所等ノ大口需要ナカ
リシ爲メ取引閑散ヲ極メタルカ相場ニ至リテハ前年ニ比シテ大差ナク即チ東京ニ於ケル洋鐵丸鐵
四分十貫市價平均三圓ヲ前年ノ平均三圓二十七錢ニ比スレハ僅カニ二十七錢ノ下落ニ止リ又横濱
ニ於ケル輸入銑鐵(レットカー)百片標準相場ニ至ツテモ前年ノ平均二圓三十七錢ニ對シ本年ハ二圓

三十九錢ヲ示セリ尙ホ橫濱標準相場ノ月別平均ヲ前年ト比較スレハ左ノ如シ

四十一年		四十年	
一	月	一	月
二・二五〇	二・二五〇	二・四〇〇	二・四〇〇
二・五五〇	二・五五〇	二・四〇〇	二・四〇〇
二・六五〇	二・六五〇	二・四〇〇	二・四〇〇
二・六五〇	二・六五〇	二・四〇〇	二・四〇〇
二・四〇〇	二・四〇〇	二・四〇〇	二・四〇〇
二・三〇〇	二・三〇〇	二・四〇〇	二・四〇〇
二・三〇〇	二・三〇〇	二・四五〇	二・四五〇
二・三〇〇	二・三〇〇	二・二五〇	二・二五〇
二・一五〇	二・一五〇	二・二五〇	二・二五〇
二・二〇〇	二・二〇〇	二・二五〇	二・二五〇
二・三九〇	二・三九〇	二・三七〇	二・三七〇

世界ノ主要鐵鋼業國タル英米ニ於テモ四十一年中該業ノ甚タ不振ナリシハ言ヲ俟タサル所ナルカ左ニ其一班ヲ記シテ參考ニ資セムトス

英國鐵市場ニ於ケル前年ノ盛況ハ主トシテ米獨兩國カ内地產ノ不足ヲ補フカ爲メ英國市場ヨリ多額ノ銑鐵ヲ吸收シタルニ起因セルモノニシテ四十一年ニ於テハ其需要ノ減退ト共ニ痛ク市況ヲシテ沈衰セシメタリ今兩年間英國ヨリ米獨ヘ輸出セル銑鐵ノ統計ヲ示セハ左ノ如シ

一九〇八年

一九〇七年

減

北米合衆國

七〇、三二三

四三四、九八九

三六四、六六六

獨逸、和蘭

四一六、三九三

六三三、六〇四

二二七、二二一

其他諸國トノ貿易ニ於テモ佛、伊ヲ除ク外ハ一般ニ需要減退シタルカ爲メ銑鐵ノ總輸出高ハ前年ノ一、九四二、三三五噸ニ對シ一、二九五、七六七噸ニ下リテ約三割三分減ニ當リ一方内地ノ消費高モ亦非常ニ減少シタル結果熔鑛爐ノ如キモ前年九月ニ於テ三百七十三ヲ數ヘシモノ本年全月ニ至リテハ二百九十七トナリ約二割ヲ減シタル有様ナリ此間ニ在リテ仕上鐵及鋼就中海運業ノ否況ニ伴フ造船用「プレート」及「アングル」ノ受ケタル打撃ハ最モ甚シキモノニ屬シ「ヘマナツト」銑鐵モ之レニ關聯シテ不尠影響ヲ被リタリトノコトナルカ獨リ鐵軌ノミハ金利ノ低下及材料ノ廉價カ却テ外國ニ於ケル鐵道計畫ヲ誘起シタルモノ、如ク之レカ輸出ハ殆ト前年ヨリモ活潑ナリシト云フ四十一年ニ於ケル鐵鋼業ノ景況ハ大略前述ノ如キ不振ノ裏ニ在リタルモ其市價ニ至リテハ大變動ナク寧ロ一ケ年ヲ通シテ無事ニ經過シタルモノト謂フヘシ今「クリーブランド」銑鐵ニ就キ市價ノ變動ヲ觀ルニ前年ニ於ケル最高ハ五月ノ六十二志八片二分一、最低ハ十二月ノ四十八志三片ニシテ其差實ニ十四志五片二分一ナリシニ本年ハ五月ノ五十六志三片ヲ最高トシ二月ノ四十七志五片二分一ヲ最低トシ

テ其差僅ニ八志九片二分一ニ過キサリキ更ニ各月ニ於ケル最高最低ヲ示セハ左ノ如シ

月次	最高	最低
一月	四八・九 ^{志九片}	四七・五 ^{志五片} 二分一
二月	五〇・六	四七・八
三月	五二・六二分一	五〇・七
四月	五二・四二分一	五〇・九
五月	五六・三	四九・六
六月	五一・七	五〇・四二分一
七月	五一・二	四九・一〇二分一
八月	五二・三	五〇・九
九月	五二・二〇	五一・二
十月	五一・三	四八・一
十一月	五〇・一二二分一	四八・六二分一
十二月	四九・四	四八・四

即五月ヲ除キテハ差シタル最低ナカリシヲ見ルヘク尙一ケ年ヲ通スル平均五十志一片七ヲ前年ノ平均五十五志十片ニ比スレハ其落差五志八片餘ナルカ更ニ既往ニ遡リテ見ルモ明治八年以降即三十四箇年間ノ中三十二年三十三年三十九年及四十年ノ四箇年ヲ除ク外ハ曾テ本年ニ於ケルカ如キ

好値ヲ見サルナリ而シテ前表ニ示スカ如ク五月中ニ生シタル騰落ハ四十一年ニ於ケル市價變動ノ單調ヲ破リタル唯一ノモノナルカ其原因トシテ傳フル所ニ依レハ二月中賣方ハ市價ノ下向ヲ見越シテ三箇月先物ヲ四十八志乃至四十八志六片ノ相場ヲ以テ多大ノ賣放ヲ爲シタリシニ相場ハ豫期ニ反シ漸高ノ勢ヲ示シツ、引渡期ニ至リタルカ當時現品所持者力當ニ賣方ヲ援助セサルノミナラス却テ懲罰的ノ舉ニ出テタル結果五月十三日ノ如キハ五十七志六片ノ呼値ヲサヘ生スルニ至ラシメ之レカ爲メ先物ヲ賣放チタル者ハ全月十一日ニハ五十二志六片、十二日ニハ五十四志、十三日ニハ五十六志三片ヲ支拂ヒ以テ現品ノ引渡ヲ爲サ、ルヲ得サルカ如キ悲境ニ陷リ斯クテ煽リ了ヘタル後急轉直下シタルモノナリト云フ之ヲ除キテハ別ニ投機ノ行ハレタル形跡ヲ認メス極メテ平穩ナル市況ヲ以テ經過セリ要之四十一年ノ好値力投機者ノ引揚ケニ因ルニアラサルコトハ在荷力年ノ後半ニ於テコソ漸次増加シタルモ前半ニ於テハ極メテ少量ニシテ七月初ニハ四萬七千九百四十九噸ニ減縮シ其他「スコツチ」ノ一千噸「ヘマチット」ノ七千五百噸ニ過キサリシニ依テ視ルモ其然ル所以ヲ首肯スルコトヲ得ヘシ尙ホ仕上鐵及鋼ノ市價ハ低落一方ニシテ年内ニ上向キシコトナシ左ニ前年中好況ノ絶頂タル六月ノ市價及全年末ニ於ケル市價ト四十一年末トノ比較ヲ示スヘシ

四十年		四十一年	
六月底	七・一〇・〇 ^{志片}	十二月底	六・一〇・〇 ^{志片}
十二月底	六・一〇・〇 ^{志片}	十二月底	六・〇〇・〇 ^{志片}
全上鐵板	七・一五・〇		六・七六

鋼ボイラープレート	八一〇〇	七一〇〇	七〇〇
船舶用鋼アングル	七二・六	六二・六	五二・六
全上鐵アングル	七一五〇	七一〇〇	七〇〇
スチールバー	七一五〇	七一〇〇	六五〇
アイアンバー	八〇〇	七一五〇	七〇〇
ヘビー、スチール、レイル	六二五〇	六五〇	五二〇〇
鍍金物	一三・二七六	一三・二六	一二・一〇〇

鋼板ハ六磅十志ニ始マリ三月中旬ニ至リテ六磅五志ニ落チ六月初六磅トナリテ其後ニ變化ナク「ア
 ングル」鋼モ亦六月中旬以後五磅十二志六片ヲ保チ鍍金物ハ一月中旬以後十二磅十志ヲ持續セリ各
 種仕上鐵物ノ平均相場ハ前年十一月十二月ニ於ケル七磅六志〇片一六ニ對シテ四十一年九月十月ニハ
 六磅十二志三片六八ニ下落シ尙一箇年ヲ通スル平均ハ三十八年ノ五磅十九志二片三十九年ノ六磅
 十志十一片四十年ノ七磅三志七片ニ對シ四十一年ハ六磅十五志ヲ示セリ
 米國ニ於テモ前年末季ニ手控ヘタル銑鐵製産ハ本年ニ入リテモ依然其狀態ヲ持續シ年ノ後半ニ及
 ヒテ僅ニ製産力ヲ回復シ得タルハ左ノ統計ニ示スカ如シ

	四十一年	四十年	減
上半季	六、九一八、〇〇〇 ^噸	一三、四七八、〇〇〇 ^噸	六、五六〇、〇〇〇 ^噸
下半季	八、九一〇、〇〇〇	一二、三〇三、〇〇〇	三、三九三、〇〇〇

計

一五、八二八、〇〇〇	二五、七八一、〇〇〇	九、九五三、〇〇〇
------------	------------	-----------

即チ後半ニ於ケル製産高ノ増進ハ幾分見ルヘキモノアルモ尙前年ニ對シ三割八分餘ノ減少ニ當リ
 最近八年間ニ於ケル産額中ノ最少額ヲ示シタリ鋼ノ製産額ニ至リテハ銑鐵ノ製造高ニ基キテ推算
 シ得ルニ過キサカ之ニ依レハ「ベセマー」鋼「ベース」鋼其他ヲ合シテ一四、三五〇、〇〇〇噸ト推算セラ
 レ前年ノ製産額ニ比シテ九、〇一〇、〇〇〇噸ヲ減シタルハ主トシテ鐵軌造船用材、建築用材等ノ需要
 減少シタルニ因ル鐵鋼市況ハ前年十一月ニ於ケル財界否況ノ後ヲ承ケテ非常ノ沈滞裏ニ殆ト一年
 ヲ經過シ年末ニ至リテ僅ニ順潮ニ向ヒタルニ過キサカ茲ニ一事ノ注意スヘキハ前年十二月ニ設
 ケラレタル委員會ニ依リテ大製産者カ市價ヲ左右シタルコトニシテ之カ盟主ノ「ユーナイテツト、ス
 チール、コーポレーション」ナルコト言フ俟タス此干渉外ニ立チテ自由ノ市價ヲ維持シ得タルハ銑鐵
 棒鐵及其他少數ノ製産物ニシテ銑鐵ノ如キハ特ニ市價ヲ紛亂セラレタルカ價額ノ低廉ナルニ拘ハ
 ラス其取引高ノ甚タ局限セラレタルハ銑鐵需要ノ大部分カ鋼ノ製産ニ附隨スルニ因リ又棒鐵ノ全
 然獨立ノ態度ヲ執リテ價額ヲ引下ケタルカ爲メ勢ヒ棒鋼ヲシテ亦其價額ヲ低下スルノ止ムナキニ
 至ラシメタリ精鋼ニ就テハ一月ニ其價額ヲ改メ六月更ニ改定シタルモ爲メニ市況ヲ振作スルニ足
 ラス漸ク年末ニ及ヒテ軋條機關車、架橋材料等ニ多少ノ注文ヲ受クルニ至レリト云フ、左ニ「ピツツパ
 ーグ」ニ於ケル二三ノ種類ニ就キ平均月別市價ヲ掲ケ參考ニ資ス

銑鐵(ベセマー)

鋼(ベセマー)
ピレツツ

軋條

一 月

一九一五

二八〇〇

二八〇〇

二	三	四	五	六	七	八	九	十	十	平	前
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	均	年
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
一八、一五	一八、一五	一七、六五	一七、一五	一六、九〇	一六、二五	一六、〇〇	一五、六五	一六、九〇	一七、六五	一七、二三	二三、〇〇
二八、〇〇	二八、〇〇	二八、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二六、二五	二九、二一	二八、〇〇

石 炭

今重要市場ニ於ケル炭價ノ趨勢ヲ見ルニ門司市場ノ九州一種炭ハ一月以降四月ニ至ルマテ靜止ノ姿ナリシカ需要薄ノ季節ニ入ルニ及ヒ低落ヲ初メ冬期ニ至ルモ其頽勢ヲ挽回セス五十三圓七十五

錢ヲ以テ終リ二種炭ハ二月頃稍好望ノ氣味アリシモ五月以降漸次軟勢ニ變シ十月ニハ四十九圓二十九錢トナリ翌年ノ契約期タル年末ニ及ヒ四十九圓四十六錢ニ引返ヘシ三種炭ハ一年ヲ通シ殆ント居据ノ狀態ニ在リタリ即チ一月ニハ四十一圓五十五錢ニシテ四月ニハ四十一圓七十九錢トナレリ之ヲ四十一年中ノ最高値トシ年末ニハ四十一圓六十七錢トナレリ之レヲ一月ニ比スレハ僅カニ十二錢ノ差アルノミナリトス更ニ上半季ト下半季トヲ比較スルニ其平均價格一種炭ハ二分七厘、二種炭ハ七厘ノ下落ニシテ三種炭ハ全ク保合ノ有様ニ在リ蓋シ筑豐ノ炭山ハ設備ノ改善ニ伴ヒ昨年ニ比シ自ラ其產額ヲ増加セシモ財界不況ノ爲需要ノ増加之レニ伴ハスシテ氣配甚タ昂ラス殊ニ海運業不振ノ影響ヲ受ケ内外汽船用燃料ニ五萬噸餘ヲ減シ又印度炭ノ生産増加、濠州炭ノ移入ニヨリテ南洋及印度方面ニ輸出ノ減少アリ前年來漸ク開カレタル南北亞米利加及東露ノ取引モ半ハ杜絶ノ狀態ニ陥リタル等概シテ上等炭ノ需要ニハ種々面白カラサル傾向アリタルモ内地工業用炭ハ運賃ノ低落ニ勢ヲ得テ其羽翼ヲ名古屋以西ニ張り不景氣ニ拘ハラス相應ノ取引アリタルヲ以テ自ラ叙上ノ形勢ヲ呈スルニ至リタルモノナラン

小樽市場ノ夕張炭ハ一月六十三圓十錢ニシテ三月ニ至リ六十二圓二十錢ニ低落シ五月ニハ六十三圓臺ニ恢復セシモ六月以降漸々下落シテ年末六十圓四十錢トナレリ之レヲ一月ノ市價ニ比スレハ二圓七十錢ノ安値ニシテ四分三厘減ニ當リ上半季ト下半季ニ於ケル平均價格ノ差ハ一圓五十錢ニシテ二分四厘ノ下落ニ當レリ由來北海道ノ石炭ハ北海道炭礦汽船會社ノ產額其過半ヲ占メ巧ミニ需供ノ關係ヲ制シ市價ニ甚シキ崩落ヲ見ルコト極メテ稀ナリシカ本年ニ至リテハ其以外ノ炭山漸

ク發達シ全道ノ產額ニ十八萬七千噸餘ノ増加アリ且鐵道國有トナリテ輸送意外ニ抄取り續々市場ニ搬出セラル、ノ姿ナリシヲ以テ全ク一般的不景氣ヲ脱スル能ハサルニ至リタルモノナラン
隅田川市場ノ磐城炭ハ一月ニハ四十一圓ナリシカ四月ニ至リ三十九圓五十錢ニ低落シ暫ク此ノ景氣ヲ持續シテ八月ニ至リ九月以後漸次軟弱トナリ年末ニハ辛フシテ三十八圓ヲ維持シタリ今之レカ原因ノ主タルモノヲ求ムルニ財界不況、一般ノ物價下落ノ影響ヲ受ケタルハ勿論ナルモ(一)東京電燈會社カ火力ヲ廢シ水力ニヨルコト、ナリタルカ爲メ日々七十萬斤以上ノ大需要ノ全ク不用ニ歸シタルト(二)北海炭ノ東京ニ輸送セラレタル數量ノ前年ヨリ増加シタルコト等ニアルカ如シ
東京市場ニ於ケル唐津上塊ノ小賣相場ハ存外常ニ好況ニシテ一年ヲ通スル平均價格ハ六十六圓七十三錢ニ當リ之レヲ前年ノ平均價格ニ比シ却テ三分三厘ノ騰貴ヲ見タリ又左表以外ナルモ茨城無煙炭ハ薪炭價格ノ騰貴ノ爲代用品トシテ盛ニ坊間ニ使用セラレ市場ノ在荷常ニ不足勝ニシテ市價前年ニ比シ四分内外ヲ騰貴セリ此ノ二種ハ本年ノ炭況ヨリ見レハ寧ロ例外ニシテ其ニ特種ノ需要ヲ有シ且ツ市場ニ出テタル數量甚タ多カラサリシニヨルモノナラン
前年ノ例ニヨリ左ニ各種ノ月別炭價表ヲ掲記スヘシ

月別	九州炭				全(東京市場)				磐城炭(隅田川市場)				夕張炭(小樽市場)			
	一	二	三	月	一	二	三	月	一	二	三	月	一	二	三	月
四十年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十一年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十二年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十三年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十四年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十五年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十六年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十七年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十八年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十九年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
五十年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭

月別	九州炭				全(東京市場)				磐城炭(隅田川市場)				夕張炭(小樽市場)			
	一	二	三	月	一	二	三	月	一	二	三	月	一	二	三	月
四十年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十一年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十二年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十三年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十四年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十五年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十六年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十七年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十八年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
四十九年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭
五十年	五九・三	五九・三	五九・三	炭	六六・九三	六六・九三	六六・九三	炭	四一・〇〇	三九・二〇	六三・一〇	炭	六二・二〇	六二・二〇	六二・二〇	炭

備考 東京市場ノ九州炭ハ唐津上塊、隅田川市場ノ磐城炭ハ入山採炭會社、津島炭ニシテ小樽市場ノ夕張炭ハ北海道炭鐵礦船會社ノ夕張塊炭ナリ次表モ亦之レト同シ
又一年ヲ通スル平均價格表左ノ如シ

炭種	市場	平均相場		比較高低	全上割合(△印減)
		四十年	四十一年		
九州炭	一 種 炭	五五・一九	五五・一九	△	〇・三三
九州炭	二 種 炭	四九・四九	四九・四九	△	〇・〇九
九州炭	三 種 炭	四一・六六	四一・六六	△	〇・三七

全 磐 夕			東 京		
張	城	炭	隅田川	炭	小樽
六六・七三	三九・五四	六一・九〇	六四・五九	三九・九五	六四・二四
二・二四	〇・四一	二・二四	〇・三三	〇・一三	〇・三五

前表ニヨレハ各種トモ前年ニ比シ悉ク低落シ僅ニ東京小賣相場ニ於テ唐津上塊ニ三分三厘ノ騰貴ヲ見タルニ過キス之レニヨリ以テ本年ノ輸出減少及生産増加(輸出表、産額表參看)カ炭價ノ上ニ及ボシタル影響ノ如何ニ劇甚ナリシカヲ察スルニ足ルヘシ只本年ノ石炭需要界ニ於テ稍注目ニ値スル新事實ハ各地ニ於ケル小規模工業家ノ從來薪炭ヲ燃料トシタルモノ漸次低廉ナル石炭ヲ使用スルニ至リタルノ一事ニシテ爲ニ切込炭乃至粉炭ノ需要ヲ増加シ其市價却テ上等塊炭ニ比シ割合ニ優等ナル傾向ヲ有シタルニアリトス

全國主要市場ニ於ケル半季末貯炭高ヲ示セハ左ノ如シ

市場貯炭高 單位ハ英噸△ハ減歩合ハ千分比例トス

市 場	上 半 季		下 半 季	
	明治四十一年	明治四十年	明治四十一年	明治四十年
門司	三一三、五四四	三九四、〇三二	四五二、七六九	三七二、一九四
若松	八八、六二一	六五、七五八	七四、四〇二	五八、六三七
宇ノ島	一五、六四二	一七、五九二	二六、九五八	二〇、八八六
		前年對増減歩合		
		△二〇五		
		三四八		
		一一一		
		二二四		
		二六九		
		二九一		

計	唐 津		隅 田 川		小 樽		室 蘭	
	五三、七二五	一〇四、九三五	一八、六三二	三三、三五三	五八、三三〇	一三、六五二	六二、八〇二	六〇二、三一四
	五四	四五、〇四九	四、四一三	六、八八〇	一三、六五二	三、二七三	六二、八〇二	六〇二、三一四
	五二一	四四、四一三	三、八四八	三、二七三	五二一、七一	五六九	六二、八〇二	六〇二、三一四
	五二一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	六二、八〇二	六〇二、三一四
	五二一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	六二、八〇二	六〇二、三一四
	五二一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	六二、八〇二	六〇二、三一四
	五二一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	六二、八〇二	六〇二、三一四
	五二一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	六二、八〇二	六〇二、三一四
	五二一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	五二一、七一	六二、八〇二	六〇二、三一四

備考 四十年分門司貯炭高ニ關シ筑豊組合ト門司全業組合トノ報告ニ差違アルモ茲ニ筑豊組合ノ分ヲ掲記ス

石 油

昨年以來稀ナル好況ヲ呈シタル原油ノ市價ハ四十一年ニ入り依然トシテ高調ヲ持續シ東山油田原油ハ年平均市價一石六圓十八錢、新津油田(小口)ハ同二圓九十八錢ノ高値ヲ示セリ殊ニ新津原油ニ至ツテハ三箇年前ニ比スレハ十割以上ノ騰貴ニシテ殆ント未曾有ノ奔騰ナリトス蓋新津原油ノ斯ノ如ク高値ヲ持スルニ至リタル所以ハ燈油ノ配合料トシテ彼ノ一分五厘油ノ需要盛ナルト輓近各種工業ノ進歩ニ伴ヒ原動機ノ燃料トシテ輕油、機械運轉用トシテ機械油ノ需要増加トハ此等必需油ノ製造ニ獨特ノ油質ヲ具フル新津原油ヲシテ勢ヒ高趨ヲ占ムルニ至ラシメタルニ因レリ今最近五箇年間ニ於ケル兩油田原油ノ一石建年平均市價及四十、四十一年中ニ於ケル月別市價ヲ示セハ左ノ如シ

年次
三十七年
三十八年
三十九年
四十年
四十一年

東山油田原油

新津油田原油(小口)

四、九二〇
四、七二〇
四、七三〇
六、〇三〇
六、一八〇
一、一六〇
一、四一〇
二、三五〇
二、九八〇

月次	東山油	田原油	新津油	田原油
一	六、五〇〇	五、八〇〇	三、二〇〇	一、五五〇
二	六、五〇〇	六、〇〇〇	三、二〇〇	一、五五〇
三	六、五五〇	六、〇〇〇	三、六〇〇	二、〇五〇
四	六、四〇〇	六、〇〇〇	三、二〇〇	二、一五〇
五	六、二五〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	二、二五〇
六	六、一〇〇	五、八〇〇	三、〇〇〇	二、二五〇
七	六、〇〇〇	五、八〇〇	二、七〇〇	二、三五〇
八	六、一〇〇	六、二〇〇	二、八〇〇	二、四五〇
九	六、一〇〇	六、二〇〇	二、八〇〇	二、六〇〇

十	十	十	平
月	月	月	均
六、二〇〇	五、九〇〇	五、五〇〇	六、一八〇
六、二〇〇	六、四〇〇	六、〇〇〇	六、〇三〇
二、八五〇	二、八〇〇	二、六〇〇	二、九八〇
二、七五〇	三、〇五〇	三、一五〇	二、三五〇

今四十一年中ニ於ケル内外燈油ノ商況ヲ概觀スルニ當リ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ前年以來活況ヲ持續セシ石油市場ハ逐月昂騰ノ度餘リニ突飛ナルニ鑑ミ必スヤ之レカ反動ノ容易ナラサルモノアルヘシト前途稍ヤ悲觀ヲ抱クモノナキニアラサリシカ事實ハ全ク之ニ反シ年初以來極メテ強硬ノ態度ヲ持シ増々騰貴ノ氣勢ヲ示セリ之レ全ク需要増加ニ伴フ供給不足ノ因ヲ然ラシムル所ナルハ勿論ニシテ各地何レモ品薄ヲ告クルノ狀況ヲ呈セリ然モ一面ニ在テハ往々消費稅ニ對スル見越買ノ行ハレタルニ依リ實際品拂底ノ折柄市場ノ氣配ヲシテ一層強硬ナラシメタルモノ、如シ即チ國油寶玉印ノ二月三圓四十五錢ナリシモノ、三月ニ於テハ三圓六十八錢ニ進ミ黑大勝利亦二月三圓十錢ナリシモノ三月ニ於テ三圓三十三錢ニ上レリ爾後七八月ニ至ル迄ハ殆ント石油市場ノ閑散季節ニ屬シ例年市價ノ低落ヲ見ルニ拘ハラス四月以後ニ於テ大ナル變動ヲ見サリシハ前年以來石油市場ニ於ケル空前ノ珍事ナリトス然レトモ一般ノ需要薄ハ稍モスレハ市價ノ低落ヲ強ヒ恰モ外油虎印ノ發賣格安ナリトノ風說ハ季節柄平靜ナラントスルノ市場ヲシテ一層沈靜ナラシメタルモノ、如ク爲メニ五月以後ニ於テハ表面上建値ヲ動スニ至ラサリシモ實際ノ氣配ハ底弱ノ狀勢ニアリ

タリ斯クテ上半季ヲ終リ七月ニ入り外油先ツ十錢乃至二十錢方ノ安値ヲ發表シタルカ爲メ一時市場前途ノ成行ヲ氣構ヘ荷動極メテ薄弱ニシテ一般大取引ヲ躊躇セルモノ、如ク需要増大ノ季節ヲ目前ニ控ヘタルニ拘ハラス氣勢更ニ振ハサリシカ國油ハ容易ニ其建値ヲ動カサス八月ニ入り外油ノ値上ニ伴ヒ國油亦四五錢方ノ高値ヲ發表シ商勢一轉市場稍ヤ活氣ヲ催フセリ去レト春季ニ於ケルカ如キ活躍ヲ見ルニ至ラサリシハ全ク市場ニ於ケル品潤澤ノ結果ヨリシテ勢ヒ荷捌競争ノ姿ニ陥リ之カ爲メ季節將ニ昂騰セントスル市價ノ向上ヲ妨ケ十月ニ於ケル國油ノ景品附發賣モ著シク市場ノ沈靜ヲ覺醒スルニ至ラス市況ハ依然トシテ底弱ノ儘年ヲ終レリ次ニ外油ノ商況ヲ通觀スルニ是又國油ニ於ケルト等シク年初以來其賣行ニ比シ在荷少ク市價日高趨ヲ持シタリ二月以後四月頃ノ間ニ在テハ漸次需要薄ノ季節ヲ迎フルニ拘ハラス消費稅ノ氣構ヨリシテ相應ノ取引行ハレ市價亦四五錢方ヲ昂騰セシコト國油ト異ナルコトナシ而シテ六月ニ至ル迄概シテ保合ノ姿ニテ經過シ七月ニ入り「チャスター」突如トシテ大暴落値ヲ發表セリ之レ從來ノ成行上頗ル奇異ノ出來事トシテ認メラレ市況稍ヤ動搖セントスルノ形勢ヲ示シタリシモ爾後幾何モナク引締リ大ナル變動ヲ見ルニ至ラスシテ止ミタリ九月以後需要季ニ入ルニ從ヒ賣行頗ル活潑ナリシト雖トモ暴落ノ餘波如何ヲ氣構ヒ相場ハ一般ノ期待セルカ如キ高調ヲ現ハスニ至ラス年末ニ至ル迄殆ント保合ノ姿ニテ終レリ之レヲ要スルニ四十一年中ニ於ケル石油市場ハ内外油共年平均市價ニ著シキ騰貴ヲ來シ其商況前年ニ比シ遙カニ優勢ノ地位ヲ占メタリ而シテ其騰貴歩合カ內國油ノ外國油ニ比シ比較的大ナリシハ前年ニ於ケルト其ノ趨勢ヲ同フシ頗ル注目スヘキ事實ナリトス之レ蓋シ製油技術ノ

進步ニ伴フ油質ノ改良漸ク需要者ノ認識スル所トナリ販路自ラ擴張セラレ需要増加ノ結果ニ因リタルモノナランカ左ニ最近五箇年間ニ於ケル内外燈油ノ年平均市價并ニ四十一年及四十年中ニ於ケル月別市價對照表ヲ示スヘシ

年次	長岡寶玉印	東京チャスター(米油)
三十七年	二、五六〇	三、三二〇
三十八年	二、四一〇	三、三一〇
三十九年	二、六三〇	三、五〇〇
四十年	三、二二〇	三、七二〇
四十一年	三、六四〇	三、九八〇

月別	種別	東京チャスター		東京タンク		長岡寶玉印		長岡黒大勝利	
		明治四十一年	明治四十年	明治四十一年	明治四十年	明治四十一年	明治四十年	明治四十一年	明治四十年
一	月	三、八七〇	三、五九〇	三、六二〇	三、四四〇	三、四五〇	二、八七〇	三、〇五〇	二、一七〇
二	月	三、九二〇	三、五九〇	三、七二〇	三、四七〇	三、四五〇	三、〇〇〇	三、一〇〇	二、二八〇
三	月	四、〇〇〇	三、六二〇	三、七五〇	三、五〇〇	三、六八〇	三、一〇〇	三、三三〇	二、二八〇
四	月	四、〇四〇	三、六九〇	三、七五〇	三、五〇〇	三、六八〇	三、二〇〇	三、三三〇	二、五二五
五	月	四、〇六〇	三、六九〇	三、七五〇	三、五〇〇	三、六八〇	三、二〇〇	三、〇〇〇	二、五五〇
六	月	四、〇八〇	三、七〇〇	三、七五〇	三、五二〇	三、六八〇	三、二〇〇	二、九五〇	二、五五〇

平	十	十	十	九	八	七
均	二	一	月	月	月	月
三、九八〇	三、九八〇	三、九八〇	三、九八〇	三、九八〇	三、九八〇	三、九八〇
三、七二〇	三、八七〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇
三、七六〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇
三、六〇〇	三、八五〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇
三、六四〇	三、六八〇	三、六八〇	三、六八〇	三、六八〇	三、六八〇	三、六八〇
三、二二〇	三、四五〇	三、四五〇	三、四五〇	三、四五〇	三、四五〇	三、四五〇
二、九二〇	二、六〇〇	二、七〇〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇
二、六〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇

備考「チヤヌター」及「ダング」ニ付テハ東京市場、寶王印及黒大勝利ニ付テハ長岡市場ニ於ケル市價ヲ掲グ

錫

四十一年中大阪市場ニ於ケル錫ノ相場ハ年平均百斤ニ付八十一圓七十九錢ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ二十三圓餘ノ下落ニシテ最近三箇年間ニ於ケル最低値ヲ示セリ
今全年中ニ於ケル市價ノ變動ヲ概觀スルニ前年來金屬市價大暴落ノ結果ヨリシテ其年ノ十二月相場八十二圓三十九錢ヲ承ケ一月ノ七十八圓五十六錢ニ始マリ二月ニハ殆ント居据リノ姿ナリシカ三月ニ至リ稍ヤ高氣配ヲ示シ漸進シテ四月ニハ八十六圓四十三錢ニ上リ全年中ニ於ケル最高値ヲ現ハセシモ爾後再ヒ頽勢ニ移リ七月ノ八十一圓十七錢ハ八月ニ於テ一旦八十五圓臺ニ引返シ更ニ又軟勢ヲ示シ九月ノ八十二圓九十三錢ヨリ漸下シテ十二月ノ七十七圓八十一錢ニ終レリ

翻テ倫敦市場ニ於ケル錫價變動ノ概況ヲ見ルニ他金屬ノ不況ト等シク全年ヲ通シテ悲境ニ沈淪セリ即チ一月ノ百二十四磅臺ニ始マリ漸次昂進シテ四月ニ至リ百四十四磅十五片ノ高値ヲ現ハセリ此間ニ於テハ屢投機的商略行ハレタルカ爲メ市價ノ高下月毎ニ甚シク殊ニ三月ニ於テハ「バンカー」錫ノ在荷昨年ニ比シ減少セリトノ風説倫敦市場ヲ動搖セシメ俄然市價ノ昂騰ヲ促シ四月中旬ニ至ル迄ハ漸進ノ好況ニアリシカ市價ノ昂進ハ却テ東洋ヨリノ輸入ヲ誘致シ更ニ市場ニ於ケル賣放トナリ茲ニ再ヒ崩落ノ止ムナキニ至リ五月ニ於テハ百三十五磅臺ニ下レリ斯クテ六月ヲ經過シ七月ニ於テハ銅ノ好況ニ伴ヒ錫亦強氣ヲ含ミ八月ニ至ル迄ハ依然トシテ高氣配ヲ持續セシカ東洋錫ノ入津夥シク爲メニ形勢一轉賣方ニ傾キ忽ニシテ落下シ九月ニハ一噸ニ付四磅方ノ下落ヲ示シタリ十月ニ及ヒ市況再ヒ恢復ノ徵候ヲ呈シ一面消費筋ノ需要モ亦尠カラサル有様ナリシヲ以テ十一月ニ於テ百三十六磅ノ珍值ヲ現ハシタリ蓋シ米國ノ需要多大ナリトノ風説之カ主因ヲナシタルモノ、如シ然レトモ事實ノ表明ハ幾何モナク此等ノ旨想ヲ一醒シ漸下シテ十二月ノ百三十一磅臺ニ終レリ之ヲ要スルニ本年錫價ノ變動ハ殆ント投機的商略ニ左右セラレ米國ニ對スル需給問題ノ如キハ實ニ一部ノ原因ヲ爲シタルニ過キサリシ今四十一年中大阪市場及倫敦市場ニ於ケル錫市價ノ月別平均價格ヲ前年ト對比セハ左ノ如シ

月	次	大 阪 市 場 (百 斤)	倫 敦 市 場 (一英噸)
一	月	明治四十一年 七八・五六〇	明治四十一年 一二四・六〇〇
	月	明治四十年 一一四・五二八	明治四十年 一九〇・二五〇

二	三	四	五	六	七	八	九	十	十	平
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	均
七八七九〇	八二四八〇	八六四三〇	八四〇〇〇	八一二七〇	八一二七〇	八五〇九〇	八二九三〇	八〇七五〇	八二二九〇	八二七九〇
一一二八九三	一一一四六八	一一〇三七五	一〇九九四三	一〇九一〇四	一〇七九七四	一〇五九六三	一〇三三八九	九九九三六	九二三四五	一〇五〇二六
一三一五〇〇	一三九五〇〇	一四四七五〇	一三五九〇〇	一二八一二五	一三三・五〇〇	一三五・五六二	一三一・三七五	一三三・八〇〇	一三六・二五〇	一三三・八五〇
一九三・二五〇	一九二・二五〇	一九〇・三七五	一九四・四〇〇	一九〇・二五〇	一八八・二五〇	一七三・三〇〇	一六五・七五〇	一四八・五〇〇	一四一・〇〇〇	一七四・六一〇

鉛

三十九年後半季ノ頃ヨリ未曾有ノ氣勢ヲ以テ漸進セル鉛價(大阪市場)ハ四十年ニ於テ百斤十一圓八錢ノ珍值ヲ現ハシタリシカ全年末ニ於ケル金屬價ノ大暴落ハ亦鉛價ニ打撃ヲ與ヘ四十一年ニ於テ

八年平均市價八圓三十四錢ニ下リ之ヲ前年ニ比スレハ百斤ニ付二圓七十四錢ヲ下落セリ
今全年中ニ於ケル市價變動ノ概況ヲ見ルニ前年十二月ノ十一圓三十九錢ヲ承ケ一月ノ九圓六十錢ニ始マリ二月ニハ九圓十七錢ニシテ市況稍ヤ底安ニ傾キシカ三月ニ於テ八圓七十二錢ニ下レリ而シテ六月ニ至ル迄ハ辛フシテ原狀保合ノ姿ナリシモ市況ノ不振ハ更ニ一步ヲ進メ七月ニ及ヒ八圓臺ヲ破リ七圓八十四錢トナリ爾來氣勢引立ヌ十月ノ七圓七十七錢ヲ全年中ノ最低トシテ十一月ニ移リ全月ニ於テ八圓臺ニ引返シ十二月ノ八圓二錢ヲ以テ終レリ
翻テ千九百八年中紐育市場ニ於ケル市場變動ヲ概觀スルニ年初ニハ市場品潤澤ナルニ拘ハラス市價ハ能ク三仙六九ヲ保チ尙ホ徐々トシテ好氣配ヲ示シツ、三月ニ至リシカ恰モ西部諸鐵山ニ於ケル產額減少ノ報アリタルカ爲メ消費筋ノ需要者ハ勿論投機者流ノ購買心ヲ挑發シ其結果トシテ著シク市價ヲ奔騰セシメ四月ニハ四仙ニ上レリ左ナキタニ春期ハ概シテ用鉛工業ノ盛況ヲ來シ例年鉛價ノ騰貴ヲ見ルノ時期ナルニ偶々大需要ノ現ハレタルカ爲メ市況頗ル好景氣ヲ呈シ市價増々昂進ノ氣勢ヲ占メ漸進シテ八月ニ至リ四仙五八ノ高値ヲ示セリ此間ニ在テハ多少投機的商策ノ與カル所ナキニアラサリシモ四月以來市場品薄ナルニ反シ五六月ヲ通シ實際大手筋ノ取引アリタルモノ亦騰貴ノ一因タラスンハアラス斯克テ九月ニ移リ市場漸ク品潤澤ニ過キ商況稍ヤ沈靜ニ歸シタリシモ幾何モナク形勢一轉下落ニ傾キ漸下シテ十二月ノ四仙二四ニ終レリ
倫敦市場モ亦一月ニハ殆ント保合ノ姿ニシテ市價十五磅二五乃至十五磅五〇ノ間ヲ往來シタリシカ市場ニ於ケル在荷ノ豐富ナルニ比シ消費筋ノ需要極メテ僅少ナリシヲ以テ商勢振ハス斷ヘス底

安ノ氣配伏在シ二月以來漸下シテ六月ノ十二磅六〇ニ及ヘリ七月ニ入リ氣勢俄ニ昂進シ更ニ八月ニ於テハ十三磅三八ニ上リシカ投機筋ハ此機ニ乘シ盛ニ投賣ヲ試ミ遂ニ下落ノ止ムナキニ至レリ爾來商況不振ノ間ニ十一月ニ移リ他金屬市價ノ騰貴ノ狀勢ニ照シ茲ニ思惑的取引ノ行ハレ一時市價ノ昂騰ヲ實現セリト雖モ消費筋ノ需要左迄進マサリシヲ以テ早クモ十二月ニハ十三磅六六ニ下リ年平均十三磅四四ヲ以テ終レリ

今大阪、紐育及倫敦市場ノ月別平均市價ヲ前年ト對比セハ左ノ如シ

月次	大阪市場 (百斤)		倫敦市場 (一英噸)		紐育市場 (一封度)	
	明治四十一年	明治四十年	明治四十一年	明治四十年	明治四十一年	明治四十年
一	九・六〇〇 ^町	一一・五七五 ^町	一四・四六九 ^磅	一九・八二八 ^磅	三・六九一 ^仙	六・〇〇〇 ^仙
二	九・二七〇	一一・一八七	一四・二五〇	一九・五三一	三・七二五	六・〇〇〇
三	八・七二〇	一〇・七二三	一三・九七五	一九・七〇三	三・八三八	六・〇〇〇
四	八・四七〇	一〇・七一八	一三・四六九	一九・九七五	三・九九三	六・〇〇〇
五	八・四九〇	一一・一七二	一二・九三八	一九・六八八	四・二五三	六・〇〇〇
六	八・三〇〇	一一・四四三	一二・六〇〇	二〇・一八八	四・四六六	五・七六〇
七	七・八四〇	一一・三三二	一三・〇〇〇	二〇・三五〇	四・四四七	五・二八八
八	七・八〇〇	一一・一四九	一三・三七五	一九・〇六三	四・五八〇	五・二五〇
九	七・八八〇	一一・〇二七	一三・一二五	一九・七七五	四・五一五	四・八一三

月次	十	十	十	平
月	月	月	月	均
	七・七七〇	八・〇六〇	八・〇二〇	八・三四〇
	一一・〇八一	一一・二〇〇	一〇・三八五	一一・〇八三
	一三・三七五	一三・五三八	一三・一五六	一三・四三九
	一八・五三一	一七・二八一	一四・五〇〇	一九・〇三四
	四・三五一	四・三三〇	四・二二三	四・二〇〇
	四・七五〇	四・三七六	三・六五八	五・三二五

安質母尼

安質母尼精製ハ輓近稀ナル不況ニ陥リ前年以來沈落ノ趨勢ハ四十一年ニ入リ増々甚シキヲ加ヘ年平均十八圓六十五錢ヲ示セリ之ヲ前年(四十一圓)ニ比スレハ百斤ニ付二十二圓三十五錢又三十九年(五十五圓)ニ比スレハ三十六圓三十五錢ノ下落ニシテ暴落ノ甚シキモノ他金屬ニ其例ヲ見サル所ナリ今四十一年中ニ於ケル市價ノ變動ヲ通觀スルニ前年中ノ最低市價タル十二月ノ二十二圓四十二錢ヲ承ケ一月ニハ二十圓ニ下リ次テ二、三月ニハ十九圓臺ニ落チ四、五月ニ於テ稍引返シタルモ氣勢進マズ翌六月ニ至リ再ヒ十九圓臺ニ崩落セリ爾後閱月漸下シ八月ニ入リ十七圓臺ニ下ルヤ頽勢更ニ回復ノ微ナク一高一低ノ間ニ辛フシテ原狀ヲ維持シ十二月ノ十七圓九十二錢ヲ以テ終レリ

翻テ千九百八年中倫敦市場ニ於ケル安質母尼ノ市價變動ノ狀況ヲ見ルニ年初以來市況極メテ沈靜ナリシモ消費筋ノ需要尠カラサリシカ爲メ市價ニ著シキ變動ヲ見ス殆ント保合ノ姿ニテ上半季ヲ經過セリ下半季ニ入リテハ市況一轉下落ニ傾キ七月ニ於テ二磅方ヲ下落シ引續キ八月ニ至リ三十

一磅臺ニ下レリ蓋シ支那產安質母尼ノ輸入多大ナリシト鐵道用ノ消費ナカリシトノ二者ニ歸因ス
ト雖モ安質母尼ニ付テハ從來屢投機的商策ノ行ハル、ヲ常トスルヲ以テ之ヲ下落ノ唯一ノ主因ト
認ムルコト能ハサルヘシ之ヲ要スルニ安質母尼ハ全年ヲ通シテ悲境ヲ脫スルコトヲ得サリシノミ
ナラス年末ニ及ヒ市況更ニ悲運ニ傾キタルモノ、如シ
今大阪及倫敦兩市場ニ於ケル精製安質母尼ノ月別平均市價ヲ前年ト對比セハ左ノ如シ

月次	大阪市場 (百斤)		倫敦市場 (一英噸)	
	明治四十一年	明治四十年	明治四十一年	明治四十年
一	二〇・〇〇〇 ^円	六五・八六〇 ^円	三四・五〇〇 ^磅	一〇七・七五〇 ^磅
二	一九・一七〇	六〇・二五〇	三五・二五〇	一〇五・八七五
三	一九・〇〇〇	五五・三三〇	三四・〇〇〇	一〇〇・一〇〇
四	二〇・三四〇	五二・八六〇	三三・一二五	九二・二五〇
五	二〇・〇〇〇	四九・五七〇	三四・九〇〇	七八・五〇〇
六	一九・三三〇	四五・三三〇	三四・一二五	五六・一二五
七	一八・一九〇	三七・一六〇	三二・二〇〇	四三・三七五
八	一七・五九〇	二八・二八〇	三一・〇〇〇	三八・二〇〇
九	一七・五〇〇	二四・九六〇	三一・〇〇〇	四〇・七五〇
十	一七・五〇〇	二五・〇〇〇	三二・八〇〇	四二・〇〇〇

月次	平均	十	十
月	月	月	月
一	一七・二五〇	二五・一一〇	三三・〇〇〇
二	一七・九二〇	二二・四二〇	三二・八〇〇
平均	一八・六五〇	四一・〇一〇	三三・二二五
			六四・五七七